

「地域活性化に役立つ近代化産業遺産」に認定された展示設備の概要

経済産業省が、わが国の近代産業の発展に尽くした各地の近代化産業遺産を、産業史・地域史ごとに 33 の遺産群に分類してとりまとめるとともに、地域活性化に役立つ資産として認定するもの。

< 認定の対象となった当社展示設備の概要 >

とうのさわせんてつとう  
「塔之沢線鉄塔」

1909（明治 42）年に、塔之沢発電所（水力、現在：神奈川県箱根町）で発電した電力を、保土ヶ谷変電所（現在：神奈川県横浜市）まで、亘長 58 k m、電圧 46 k V の 2 回線で送電した鉄塔。

送電線の支持物として国内では初めて本格的に鉄塔が採用された送電設備。

施工者：箱根水力電気株式会社

高 さ：14.68m（11.85mに加工して展示）



きぬがわせんてつとう  
「鬼怒川線鉄塔」

1911（明治 44）年に、下滝発電所（水力、現在：鬼怒川発電所、栃木県日光市）で発電した電力を、東京変電所（現在：尾久変電所、東京都荒川区）まで、亘長 124 k m、電圧 66 k V の 2 回線で送電した鉄塔。

当設備は、当時国内では最高電圧となる 66kV で送電を行い、送電線の支持物には全線に鉄塔を採用。

また、鉄塔の幅員を狭くするよう、写真のように人が両腕をあげたような形状とし、「バンザイ鉄塔」と呼ばれていた。

施工者：鬼怒川水力電気株式会社

高 さ：13.40m（11.85mに加工して展示）



あさひへんでんしょどうきちようそうき  
「旭変電所同期調相機」

1926(大正15)年に、遠隔地にある水力発電所から首都圏に送られてくる電力の電圧適正維持や力率改善のために、旭変電所(現在:神奈川県横浜市)に導入した設備。

使用期間:1926(大正15)年

~1988(昭和63)年 <63年間>

施工者:東京電燈株式会社

製造者:ゼネラル・エレクトリック社(アメリカ)

大きさ:軸方向全長5.72m、軸直角幅4.75m、床上全高3.49m

